2. 公募研究　6）高等教育機関における「障がい者の生涯学習」提供モデルの開発：モデル開発に向けたニーズに関する実態調査

近藤尚也、志水幸、白石淳
（看護福祉学部臨床福祉学科/北海道医療大学先端研究推進センター）

【背景】

文部科学省では近年、障害者の生涯学習の推進についての取り組みを進めており、北海道においても、障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業として、障がい者の生涯学習推進の取り組みが進められている。加えて本学においても 2003 年より学生が中心となり「オープンカレッジ」の活動を通して、障がい者の生涯学習に寄与している。

【目的】

そのような背景のもと、まだ充分な情報が蓄積されていない北海道内の障がい者の生涯学習に関するニーズを明らかにし、高等教育機関が進める生涯学習の提供モデル開発に向けた基礎資料としていくことを目的とした。

【研究計画】

本研究では以下の４点について計画している。
①特別支援学校へのヒアリング調査の実施、学校教育の視点からみたニーズについて明らかにする。（本報告）
②障がい福祉サービス事業所及び利用者へのアンケート調査より、生涯学習に対するニーズを明らかにする。
③行政機関（社会教育部署、教育委員会等）からの情報収集し、補足資料とする。
④生涯学習を通して資格等を取得した障がい者の活動の実際について視察を行う。
（※新型コロナウイルスの関係から一部遠隔にて実施を検討）

【研究成果について（経過報告）】

特別支援学校へのヒアリング調査について

目的

卒業後における生涯学習の機会として求めるものについて、特別支援学校へヒアリング調査を行い、学校教育の視点からみたニーズについて明らかにする。

研究方法

北海道内の高等支援学校及び特別支援学校高等部７校とし、進路指導担当教員を中心に半構造化面接によるヒアリング調査を行った。得られた内容は逐語にしたのち、その内容を質的に整理した。インタビュー時の記録と逐語録、該当校の学校要覧等補足資料をもとに分

析した。本研究の内容について、口頭及び文書にて説明し同意を得た。また、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号20N039047）。

主な調査項目

学校の特色、卒業生の主な進路、生涯学習の内容について、必要なサポートや工夫、学習の連続性について、生涯学習おける課題、ニーズ（本人、保護者）、情報提供のあり方について

結果

調査項目について得られたニーズに関連するデータを、その内容から、生涯学習へ求めること、学校教育との連動、情報のあり方、の３項目に再整理した。（別紙参照）

〈生涯学習に求めること〉

活動開催に当たっては、慣れ親しんだ場所や地域で開催される方がよいとの意見が多かった。また、送迎などあるとよいとの意見も見られた。収入が限られているものも多く、かかる費用は少ない方が参加しやすいといった意見が多かった。内容としては、仕事に関連した資格取得（ヘルパーや簿記）、調理、金銭管理、人間関係（マナーなど一般教養）、コミュニケーション、メンタルトレーニング、健康管理、運動、社会体験などが挙げられていた。参加導入に際しては、定期的に開催されていること、いつでも参加できること。学習の要素に加えて、社会参加の場（仲間とつながる場）の役割が期待されていた。

課題やサポートについて、学校教育の中では意図的に運動の場を設定している学校が多いが、卒業後はそれがなくなってしまうとの意見が多かった。学びの継続がなくなることで、学校での学びを忘れてしまう、家で過ごすことが多くなってしまう、仲間とのつながりが希薄になってしまうといった課題も挙げられていた。また、学習そのものへの関心の弱さや地域資源の不足、学習経験をいかせていないことなども挙げられていた。こうした課題へのアプローチが期待される。障がいの状況も多様であり、障がい特性や個別のニーズに合わせた提供、金銭面や、本人と合わせ家族と一体的な取り組みも必要なサポートとして挙げられていた。

〈学校教育との連動〉

学校（寄宿舎）での学びや体験の継続、発展が求められている意見が挙げられた。個別性もあり、具体的な例はあまりあがらなかったが、学校で活用した教材や学びの構成、身に着けたスキルをいかせることへの意見があった。ほとんどの学校で、運動の機会は卒業後には減少するとの意見があり、生涯学習とつなげた運動の機会を確保していく必要性が示唆された。希望があっても活用できる資源に出会うことができていない現状も触れられていた。

〈情報のあり方〉

生涯学習に関する情報について、特別支援学校では、有効な情報を届けることが十分にできる体制には至っておらず、その体制整備の必要性が示唆された。また、単に情報を配信してもその受け止めや関心が十分でない場合、活動にはつながらないことも挙げられた。支援機関が比較的充実している都市部近郊に関しては、支援機関による発信がみられる。学校においてあまり情報が集まる状況とはなっていなかった。

【研究成果の公表】

近藤尚也（２０２１）「特別支援学校からみた知的障がい者の卒後の運動・スポーツ活動－生涯学習に関するヒアリング調査からの一考察－」日本アダプテッド体育・スポーツ学会第２６回大会、ポスター発表

北海道「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」において、研究成果の経過報告